

言語と文化を学ぶ学習者のレジスタンスとモチベーションに関する研究

宮房, 寿美子

Shaules, Joseph

Schmidt, Gabriela

Fritz, Robinson

<https://hdl.handle.net/2324/7326339>

出版情報 : Bulletin of Toyo Gakuen University. 28, pp.164-177, 2020-02-28. Toyo Gakuen University

バージョン :

権利関係 : Copyright(c) 2011 by Toyo Gakuen University



言語と文化を学ぶ学習者のレジスタンスと モチベーションに関する研究

Linguaculture Resistance and Learner Motivation

宮房寿美子・Joseph Shaules・
Gabriela Schmidt・Robinson Fritz

要 旨

This article introduces a pilot study to create a psychometric instrument that measures learner attitudes towards language and culture learning. Based on linguaculture learning theory, the instrument measures three motivational factors: resistance, engagement, and mixed states. According to the Developmental Model of Linguaculture Learning, language learning motivation is affected by the psychological reaction to the adaptive demands placed on the learner by the foreignness of new linguaculture patterns. This article describes the process of creating the instrument, including its theoretical assumptions, item creation, as well as initial results. Items were created and then underwent multiple rounds of factor analysis to produce the final version of the instrument. The finalized instrument can now be used by classroom teachers as a motivation reflection tool, and to help class planning.

I はじめに

1. 英語学習について

グローバル人材の育成は、高等教育機関のみならず社会全体の課題となっている。理想的な人材になるための要素として、共通語としての英語を使いこなすことが含まれる。しかし、政府の思いとは反対に多くの日本人は英語が得意ではないと思っている。ベネッセ（2014）が全国の中学1年から高校3年の6,294名を対象に行った調査によると、中高生の40%が「英語が苦手」、27%が「とても苦手」であり、およそ70%近くの生徒が「苦手」であると回答している。その主な理由として、英語にあまり関心がない、単に英語を学ぶことが好きではない、などが含まれる。そのような否定的な感情は、結果として、悪い成績として表れることも多い（Ressor, 2003）。

学習意欲の減退についての原因や理由についてはさまざまな研究がされている。主な学習意欲減退の原因として、過去の英語学習の失敗や知識不足であると考えられる（ベネッセ, 2014）。学習者本人にとって適切でない、または好きではない勉強方法で上達する者もいるが、学習者にとって最適ではない学習を続けるうちに、次第に英語を学ぶことに魅力を感じなくなり学習意欲が低下する。

次に、中高校生や大学生の中には、英語は必要ないから勉強したくない、難しすぎる、将来役に立たない、などの理由から英語の学習を嫌がる人がある（Morita, 2013; Shaules, 2017）。また、無意識

ではあるが心理的に抵抗して授業に協力的でない学生もいる。特に高校の教員たちは、英語の授業での生徒の消極的な学習態度は、彼らの将来の仕事においても働く意欲を減退させる主な原因にもなると感じている (Sugino, 2010)。また八島 (2015) や Burgess (2013) は、国際化する社会に興味がなく学ぶ意欲が低くなっていることを明らかにしている。

現代の大学生たちは英語学習についてどのように考えているのだろうか。また、これまでの英語学習の経験から自分自身をどのように自己評価しているのだろうか。

2. 研究の目的

本調査では、英語や他言語の学習経験や現在の英語学習や学習動機についてアンケートを実施し、大学生が英語を学ぶことに対してどのように思っているのかについて考察する。

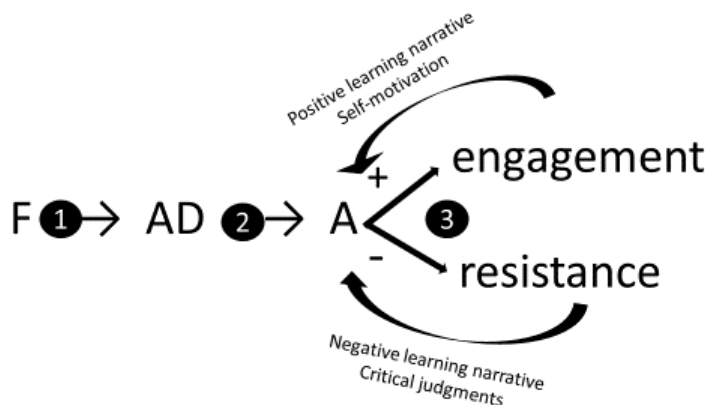
具体的な研究課題は以下の通りである。

- a) 大学生たちは自身の英語学習の経験をどのように感じているのだろうか。
- b) アンケートの質問項目として適切な内容は何か。

II 先行研究

Engagement and Resistance モデル

Shaules (2017) は、言語文化の学習 (linguaculture learning) には意欲を持って取り組む学習者と学びに対して抵抗感を持つ学習者がいると述べており、特に今まで体験したことがない要素があると学習意欲が減退することは普通であると提唱している。



- ① Foreign patterns (F) impose adaptive demands (AD) on learners.
- ② Learners respond to with more (+) or less (-) acceptance (A).
- ③ That generates engagement and/or resistance, contributing to positive/negative learning narratives.

図1 Engagement and Resistance

Shaules (2019)

図1に示す通り、外国の要素 (foreign patterns: F) に直面すると、人は今までの具体化された認知能力のパターンを変えるためにそれにふさわしい適応能力が必要とされる (adaptive demands: AD)。人はその要求に積極的 (+) にまたは消極的 (-) に受け入れる (acceptance: A) と考えられる。その結果、その要求に意欲的に (engagement) になったり抵抗感 (resistance) を示したりする。意欲的に取り組む学習者は、今までになかった異質なものを自分の中に柔軟に取り組み、また抵抗感を示す学習者は、未知のことに對して身構えてしまい嫌と思いつながらその場にいたり、学ぶ姿勢を見せずに自分の中に閉じこもったりしてしまうことがある (Shaules, 2018)。

具体的に学習者が考えることを分類ごとに分けてまとめると図2のようになる。Engagementの観点から確認すると、表面的 (Surface) には「英語を話すことはかっこいい」と思っている学習者は、その深層 (Deep) では「できるだけ英語を使うようにしたい」や「英語で話しているときは、今までにしたことのない方法で自分自身を表現している」と英語を学ぶことについて前向きに考えていることがわかる。一方で、resistanceは「文法を学ぶことは退屈」と考え、その深い心理には「人生の中で英語を使うことはないだろう」「悪い学生だから英語が全くできない」と言った消極的な態度が見られる。そして、engagementとresistanceの思いが混合している状態をmixed statesとしている。例えば、「英語は好きだが勉強していない」「英語が話せるようになりたいが、やる気がないから宿題はしていない」などの状態を示している。

Engagement

I want to use English when I travel overseas.
I like English.
English seems cool.

Resistance

I don't like English.
Grammar is boring.
I won't use English in my life.

Neutral

English is important to get a job in the future.

Mixed states

I like English but I don't like to study.
I want to speak English but I'm not motivated to do my homework. (Surface engagement + Deep resistance)

Self critical comments

I'm not good enough.
I'm not good at grammar.
I can't memorize the words.)

Psychological distancing

I won't go abroad in my whole life.
There's no need to use English in Japan.
I really hate English.

Interpreting learner statements

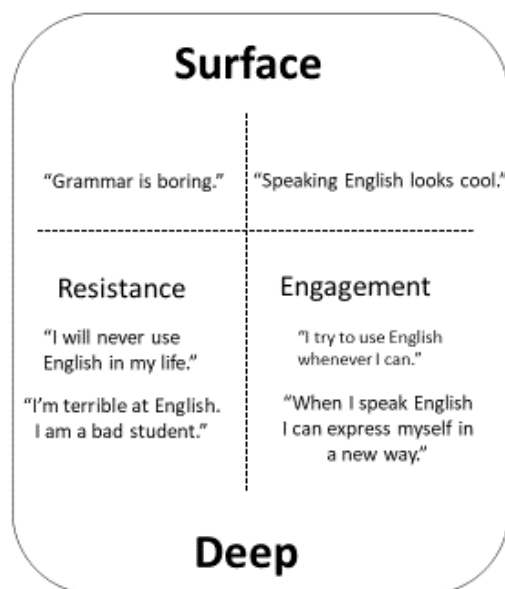


図2 Interpreting learner statements

Shaules(2019)

日本における英語学習の研究は数多く進められているが、常に問題意識を持ちながら取り組む必要がある。それに加え、異文化理解の理論が英語授業にさらされている学生たちの気持ちに応用する研究についてはあまり報告がされていない。大学生たちは現在の英語学習についてどのように考えているのだろうか。また、これまでの英語学習の経験から自分自身をどのように自己評価しているのだろうか。

Ⅲ 調査

1. 調査対象学生

本研究の参加者たちは、東京都内、および九州地区の大学生181名である。対象となる学科は、経済学部、グローバルコミュニケーション学部、商学部の所属する1～3年生である。各大学の外国語科目の授業中にアンケートを実施した。時期は2019年度の4月の前期（春学期）が開始した2～3週目にかけて行った。

2. 調査方法

英語学習の経験が学生の学習意欲にどの程度関わりがあるかを調査するためにアンケートを実施した（資料1参照）。質問1～4は、性別、年齢、国籍、母国語などを質問している。質問5～13では、英語力や過去に英語を勉強した期間や場所、また英語以外の外国語能力について記入してもらった。質問13～66はengagement, resistance, mixed statesに関連する質問である。2019年4月初旬～中旬にかけて、英文法、異文化関連、外国語の授業で10分程度を使ってgoogleフォームのアンケート機能を利用して質問に答えてもらった。学生たちは回答されたデータが研究のために使用されることを理解し、協力依頼に同意した。質問項目の回答について先行研究を照合したりSPSSを利用した因子分析を行ったりすることで、カテゴリーごとに分類し記述した。

Ⅳ 結果と分析

本研究では、engagement, resistance, mixed statesに関する質問は「全くそう思わない」「そう思わない」「そう思う」「非常にそう思う」の4つの選択肢とした。質問の順番は無作為に並べていたため回答者には分類された質問項目を記載していることが伝えていない。以下に3種類それぞれの回答結果と内容を記載する。

1. Engagement

多くの質問項目が抽象的な内容になっており、また回答結果からは英語を学ぶことを楽しんでいることがわかる。その一方で、英語を学習する重要性を過度に受け入れているようにも窺える。国際化についての考えや、英語話者となることについて前向きな考えを持っていることがわかる。以下の図3、4の円グラフに詳細を記載している。

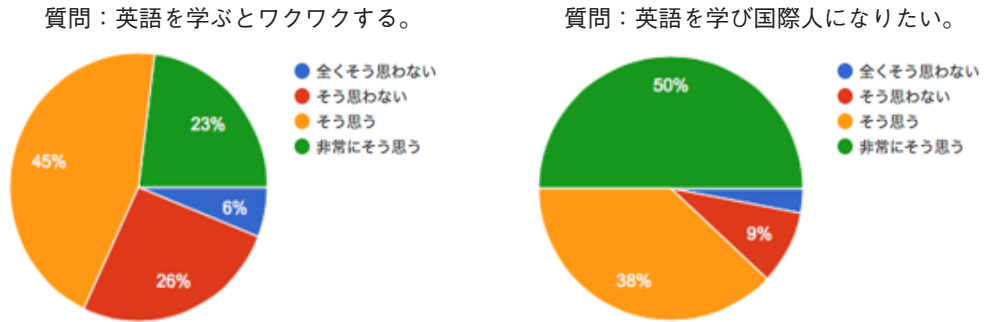


図3 Engagementの質問と回答結果1

図3では、「質問：英語を学ぶとワクワクする。」に対し、71%がそう思う、または非常にそう思うと回答している。そして、「質問：英語を学び国際人になりたい。」でも88%がそう思う、非常にそう思うと前向きに考えていることが理解できる。続いて図4では英語で文章を書くこと、および英語学習に対するモチベーションについての回答結果である。

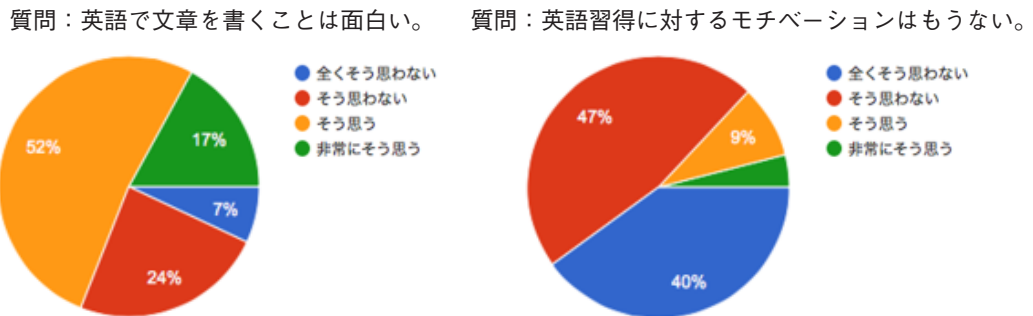


図4 Engagementの質問と回答結果2

「質問：英語で文章を書くことは面白い。」では、76%がそう思う、非常にそう思うと答えている。授業中に英作文を書くことは難しいと言ったコメントは頻繁に聞くが、その反面「面白い」とも感じている。そして興味深いことに、「質問：英語習得に対するモチベーションはもうない。」では87%そう思わない、全くそう思わないと回答している。言い換えると、回答者の9割が引き続き英語を学ぶ意欲があることがわかる。

2. Resistance

Resistance (抵抗) することは語学を学ぶ過程では普通であることがこの結果からも窺える。回答結果からは、学ぶモチベーションが減退していることを認めている。また、学生は現状では英語の勉強をまだ満足にできていないのもっと学ぶべきであり、努力した成果が結果に結びついていないと感じている。要するに、英語を学ぶ努力はしたが、失敗に終わってしまったと思っている学生もいる。回答からは、文法を何年学んでも習得できない理由は小学校、中学校、高等学校、塾、英会話教室などを含む教育機関やその関係する先生でなく、自分自身であると理解していることがわかる。図5は resistance の質問と回答結果を示す円グラフである。

質問：英語をもっと勉強すべきだと思うが、実際にはしていない。

質問：もっと努力しないといけないと分かっているがしていない。

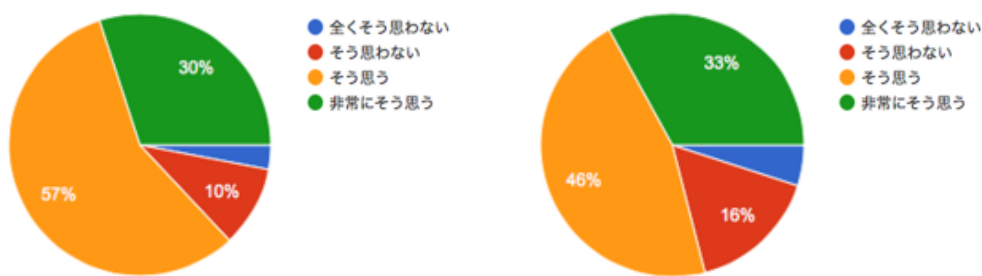


図5 Resistanceの質問と回答結果

左の円グラフに示す通り、「質問：英語をもっと勉強すべきだと思うが、実際にはしていない。」では約70%がそう思う、非常にそう思うと回答した。理想と現実のギャップがあると認識している。右の円グラフの「質問：もっと努力しないといけないと分かっているがしていない。」は約80%そう思う、非常にそう思うと自分自身に責任があると分析している。以上の通り、回答者によって学習意欲にも差があることがわかる。

3. Mixed states

英語の学びにおいて思うように上達しなかったのは、自分自身の失敗であるという思いと葛藤している。「必要であれば学ぶ」と思いと「英語を学ぶモチベーションはもうない」思いがあり、これらの意見が混在している。図6はmixed Statesを示す円グラフである。

質問：自分の英語の上達度に満足している。

質問：英語をもっと積極的に使いたい
自信が持てない。

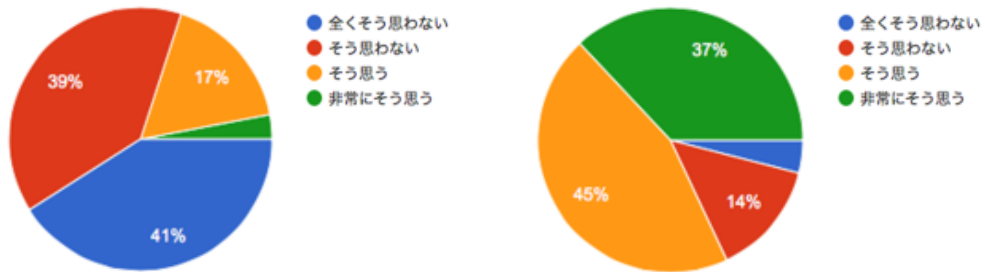


図6 Mixed statesの質問と回答結果

「質問：自分の英語の上達度に満足している。」では、80%がそう思わない、全くそう思っていない。中学、高等学校で約6年間、小学校からは英語の授業が始まった学生はそれ以上学習を続けているにも関わらず、ほとんどの学生が満足していない。また、「質問：英語をもっと積極的に使いたい
自信が持てない。」は82%がそう思う、非常にそう思うと回答している。

4. 因子分析結果

質問項目の54項目に対して主因子法による因子分析を行った。固有値の変化は14.1, 5.7, 2.5, …とあり、3因子構造が妥当であると考えられた。そこで再度3因子を仮定して主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った(表1)。

各因子は以下のように解釈された。第1因子は「努力しても上達しない」など英語を学ぶ意欲がなくなっている項目が高い正の負荷量を示していた。そこで「Resistance」と命名した。第2因子は「英語は好きだが勉強はしていない」など英語の重要性は理解しているが学ぶことを実行できていない内容の項目が高い正の負荷量を示していた。そこで「Mixed States」と命名した。第3因子は「英語を使って自分の考えを表現することは楽しい」など積極的に英語を学んでいる、または今後も学びたいことがわかる内容の項目が高い正の負荷量を示していた。そこで「Engagement」と命名した。

この因子分析結果に基づき、プロマックス回転後の因子得点を推定することにより、「Resistance」得点、「Mixed States」得点、「Engagement」得点を算出した。

表1 因子分析結果

小数点第4位を四捨五入

質問項目	因子		
	1	2	3
質問 19. 英語は一生懸命勉強してもできないので、努力しない。	0.724	0.124	-0.084
質問 34. 日本人が英語の習得を強制されるのは不公平だ。	0.723	-0.195	-0.094
質問 43. 英語を学ぶことは皆が言うほど重要ではない。	0.712	-0.217	0.004
質問 29. ここは日本なので英語を学ぶ必要はない。	0.667	-0.293	0.105
質問 45. 英語が自分に役立つことはないと思う。	0.634	-0.218	0.178
質問 24. 英語を勉強することは努力に見合わない。	0.626	0.134	-0.113
質問 22. 英語教育のやり方のせいで英語が嫌いになった。	0.619	0.215	-0.213
質問 16. 海外で英語を使いたいけど、英語のクラスで英語を使うことは好きではない。	0.594	0.276	-0.170
質問 14. 将来英語を使うことはないから、勉強する気にならない。	0.541	-0.241	0.146
質問 55. 英語を学ぶことは、トラウマになっている。	0.534	0.096	0.000
質問 39. 英語の習得をあきらめようと思う。	0.520	0.130	0.126
質問 63. 英語を学ばなくてはいけないことがとても嫌だ。	0.506	0.064	0.203
質問 51. 日本の学校では英語の授業が多すぎる。	0.501	-0.001	0.098
質問 18. なぜ英語を勉強しなくてはならないか分からない。	0.494	-0.088	0.227
質問 15. 試験が多いので英語に対して否定的な気持ちがある。	0.483	0.354	-0.008
質問 48. 自分がいつか英語を習得できるとは思わない。	0.444	0.248	0.121
質問 60. 英語が必須科目でなければ勉強を止めるだろう。	0.441	0.134	0.186
質問 64. 外国人と一緒に働きたくないので、英語は必要ではない。	0.441	-0.098	0.340
質問 35. もっと良い先生であれば、英語をもっと好きになっていると思う。	0.439	0.240	-0.361
質問 46. 英語習得に対するモチベーションはもうない。	0.436	0.118	0.292
質問 59. 英語をもっと積極的に使いたいけど自信が持てない。	-0.195	0.857	-0.104
質問 58. もっと英語を使いたいけど、自信がない。	-0.217	0.854	-0.057
質問 67. 英語を話したいけど、自信がない。	-0.287	0.832	0.041
質問 52. 英語を長く勉強してきたけど、ほとんど上達していない。	0.148	0.629	-0.152
質問 28. 英語をもっと勉強すべきだと思うけど、実際にはしていない。	0.143	0.623	-0.051
質問 66. 英語をもっと話せたいけど、恥ずかしい。	-0.089	0.596	0.052
質問 54. 英語を流暢に話したいけど、練習することは好きではない。	0.040	0.576	0.235

質問 21. もっと努力しないといけないと分かっているがして いない。	0.124	0.557	0.003
質問 49. 英語がペラペラになりたいけど、練習がめんどくさ い。	0.029	0.544	0.203
質問 62. 自分は他の人と比べて英語を学ぶ能力が劣っている と思う。	0.251	0.473	-0.163
質問 25. もっと英語を上手に話したいが、やる気が出ない。	0.213	0.433	0.325
質問 57. 英語を学ぶとワクワクする。	0.032	-0.159	-0.722
質問 53. 英語を使って自分の考えを表現することは楽しい。	0.107	-0.143	-0.702
質問 61. 英語を実際場で使っている人を知っているので英 語習得に興味がある。	-0.010	0.080	-0.603
質問 41. 英語を学び、国際人になりたい。	-0.117	0.216	-0.566
質問 20. 英語を勉強することは楽しみだ。	-0.219	-0.095	-0.526
質問 65. 学校での英語の勉強は嫌いだが、実際に英語を使う ことは好きだ。	0.147	0.253	-0.477
質問 37. 海外の映画や音楽により英語を学ぶことに興味がわ く。	-0.078	0.049	-0.475
質問 36. 英語の勉強は自分にとって良い時間の使い方である。	-0.200	-0.085	-0.445
質問 17. 英語で書かれたものを読むことは面白い。	0.041	-0.400	-0.419

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

6 回の反復で回転が収束した。

V 考 察

研究課題は以下の通りであった。

- a) 大学生たちは自身の英語学習の経験をどのように感じているのだろうか。
- b) アンケートの質問項目として適切な内容は何か。

研究課題 a) については、回答結果からも Resistance (抵抗) は普通の現象であることが確認できた。Resistance (抵抗) と engagement (前向に取り組む) は正反対ではあるが学習意欲の観点からは同じ動力であるかもしれない。その理由として、語学学習における否定的なりアクションは通常のことだからである。また、学習意欲の向上と減退は双対しておらず、異なる次元の反応であると言えるだろう。分析結果から、学ぶ意欲があることが分かるが、学ぶことの心理的な要求における内的な resistance (抵抗) に直面している学生もいる。Shaules (2019) の Engagement and Resistance モデルが示す通り、このような混合する状態は一般的である。語学を学ぶ学生たちの中には意識的に resistance (抵抗) している者もいる。また分析結果からは、英語を学ぶ意欲がなくなる、努力したが

上達しない等の理由を外的な要素ではなく自分自身を責める傾向があるようだ。

研究課題 b) については、因子分析にて相関係数が0.39以下数値を削除し、さらに本研究で調査したい要素のみを選定した結果、表2の質問事項を次回の研究で使用することとする。

表2 項目別による質問事項

Resistance
1. 英語は一生懸命勉強してもできないので、努力しない。
2. 日本人が英語の習得を強制されるのは不公平だ。
3. 英語を学ぶことは皆が言うほど重要ではない。
4. ここは日本なので英語を学ぶ必要はない。
5. 英語が自分に役立つことはないと思う。
6. 英語を勉強することは努力に見合わない。
7. 英語教育のやり方のせいで英語が嫌いになった。
8. 海外で英語を使いたいけど、英語のクラスで英語を使うことは好きではない。
9. 将来英語を使うことはないので、勉強する気にならない。
10. 英語を学ぶことは、トラウマになっている。
11. 英語の習得をあきらめようと思う。
12. 英語を学ばなくてはいけないことがとても嫌だ。
13. 日本の学校では英語の授業が多すぎる。
14. なぜ英語を勉強しなくてはならないか分からない。
Mixed States
1. もっと英語を使いたいけど、自信がない。
2. 英語を長く勉強してきたけど、ほとんど上達していない。
3. 英語をもっと勉強すべきだと思うけど、実際にはしていない。
4. 英語をもっと話せたらいいけど、恥ずかしい。
5. 英語を流暢に話したいけど、練習することは好きではない。
6. もっと努力しないと分かってはいるがしていない。
7. 英語がペラペラになりたいけど、練習がめんどくさい。
8. 学校での英語の勉強は嫌いだが、実際に英語を使うことは好きだ。
9. もっと英語を上手に話したいけど、やる気が出ない。
Engagement
1. 英語を学ぶとワクワクする。
2. 英語を使って自分の考えを表現することは楽しい。
3. 英語を実際の場で使っている人を知っているのが英語習得に興味がある。
4. 英語を学び、国際人になりたい。
5. 英語を勉強することは楽しみだ。
6. 海外の映画や音楽により英語を学ぶことに興味をわく。
7. 英語の勉強は自分にとって良い時間の使い方である。

Resistanceに関する質問は14問, mixed statesは9問, engagementは7問とし, 合計30問使用する予定である。次回はさらに調査対象を拡大するために, 2019年度に実施したJapan Intercultural Institute (異文化教育研究所) 主催のワークショップやJALT (全国語学教育学会) の国際大会で口頭発表をした際に参加者を募っている。

VI 最後に

今回の対象者は比較的, 英語学科系と社会科学系のみと限定的であった。今後は, 複数の大学からのデータも集め, 対象者も増やして結果分析を進めることが課題となる。またアンケートの回数も学期開始直後に1度ではなく, 変化を調査するために学期が終了する時期にも調査する必要があるだろう。質問項目も詳細に検証するために今までの学習経験についての質問を修正し, 過去の経験が現在の学習意欲にどのように影響しているのかを確認する内容を追記することが重要となる。また, 量的研究に関しては, より深く大学生の外国語を学ぶ上での学習意欲について理解するために, 学年や性別, 学部による違いを分析するために重回帰分析等も検討する必要がある。フォローアップとして, 数名の学生にインタビューを行うことで, 学生間における学習意欲の減退と向上について明確にすることもできるだろう。今後も, アンケート内容や分析方法において改善を重ねながら継続的に研究を進めていきたい。

謝辞

本研究は科学研究費補助金 (研究課題: Linguaculture Resistance and its Effects on Learner Motivation, 研究番号: **K17K02982**) の助成を受けたものである。調査実施にあたり, 多くの皆様のご協力を頂いたことに心より感謝申し上げます。

研究代表者: Joseph Shaules

研究分担者: Gabriela Schmidt, Robinson Fritz, 宮房寿美子

参考文献

- Burgess, C. (2013, May 21). Ambivalent Japan turns on its “insular” youth. *The Japan Times*.
- Morita, L. (2013). Japanese university students’ attitudes towards globalization, intercultural contexts and English. *World Journal of English Language*, 3(4), 31-41.
- Ressor, M. (2003). Japanese attitude to English: Towards an explanation of poor performance. *NUCB Journal of Language, Culture and Communication*, 5(2), 57-65.
- Shaules, J. (2017). Linguaculture resistance: An intercultural adjustment perspective on negative learner attitudes in Japan. *Juntendo Journal of Global Studies*, 2, 66-78.
- Shaules, J. (2018). Resistance is normal: An intercultural adjustment perspective on language learner demotivation. *The Third International Psychology of Language Learning (PLL3) Conference*. June, 8, 2018.
- Shaules, J., Gabriela S., Miyafusa, S. (2019). Half-day workshop – Engaging students with the Linguaculture

Motivation Profiler, *Japan Intercultural Institute Learning Circle*. June 29, 2019.

Sugino, T. (2010). Teacher demotivational factors in the Japanese language teaching context. *Procedia Social and Behavioral Sciences*, 3, 216-226.

ベネッセ教育総合研究所 (2014) 『速報版：英語学習に関する実態調査2014』

https://berd.benesse.jp/up_images/research/Teenagers_English_learning_Survey-2014_ALL.pdf

八島智子 (2015) 『外国語コミュニケーションの情意と動機：研究と教育の視点』 関西大学出版部

資料 1

Goggle フォームを利用した質問内容

- 質問 1. 性別をお答え下さい。
- 質問 2. 年齢をお答え下さい。
- 質問 3. 国籍をお答え下さい。
- 質問 4. 母国語をお答え下さい。
- 質問 5. 過去 1 年間の間に英語能力テストを受けましたか？
- 質問 6. あなたの英語力をお答え下さい。
- 質問 7. 他にできる外国語はありますか？
- 質問 8. 過去にどこで英語を勉強しましたか？
- 質問 9. 現在どこで英語を勉強していますか？
- 質問 10. 大学生の方へ：主な専攻は何ですか。
- 質問 11. 何年英語を勉強していますか？
- 質問 12. あなたが自国以外の国に滞在した期間は合計でどれくらいですか？
- 質問 13. 将来英語を使うことはないので、勉強する気にならない。
- 質問 14. 試験が多いので英語に対して否定的な気持ちがある。
- 質問 15. 海外で英語を使いたい、英語のクラスで英語を使うことは好きではない。
- 質問 16. 英語で書かれたものを読むことは面白い。
- 質問 17. なぜ英語を勉強しなくてはならないか分からない。
- 質問 18. 英語は一生懸命勉強してもできないので、努力しない。
- 質問 19. 英語を勉強することは楽しみだ。
- 質問 20. もっと努力しないといけないと分かっているがしていない。
- 質問 21. 英語教育のやり方のせいで英語が嫌いになった。
- 質問 22. 外国人講師のクラスを受け、英語に興味を持つようになった。
- 質問 23. 英語を勉強することは努力に見合わない。
- 質問 24. もっと英語を上手に話したいが、やる気が出ない。
- 質問 25. 海外経験（海外旅行、ホームステイ、外国人の友人等）があるので、英語を勉強することに興味がある。
- 質問 26. 英語を話すことは格好いい。
- 質問 27. 英語をもっと勉強すべきだと思うが、実際にはしていない。
- 質問 28. ここは日本なので英語を学ぶ必要はない。
- 質問 29. 英語は自分の将来にとって大事だと思うが、あまり勉強する気にならない。
- 質問 30. 英語で文章を書くことは面白い。
- 質問 31. 外国人と英語を話すと気後れがする。

- 質問 32. 英語を学ぶ必要がなくても英語の勉強を続ける。
- 質問 33. 日本人が英語の習得を強制されるのは不公平だ。
- 質問 34. もっと良い先生であれば、英語をもっと好きになっていると思う。
- 質問 35. 英語の勉強は自分にとって良い時間の使い方である。
- 質問 36. 海外の映画や音楽により英語を学ぶことに興味がわく。
- 質問 37. 英語ができたらかっこいいけど、やっぱり楽しくない。
- 質問 38. 英語の習得をあきらめようと思う。
- 質問 39. 英語を学ぶことで、自分が言語の習得が不得意だと気付いた。
- 質問 40. 英語を学び、国際人になりたい。
- 質問 41. 英語の勉強をすると、他に大切なことをする時間が奪われてしまう。
- 質問 42. 英語を学ぶことは皆が言うほど重要ではない。
- 質問 43. 英語の文法は面白い。
- 質問 44. 英語が自分に役立つことはないと思う。
- 質問 45. 英語習得に対するモチベーションはもうない。
- 質問 46. 自分が英語を使うことに違和感がある。
- 質問 47. 自分がいつか英語を習得できるとは思わない。
- 質問 48. 英語がペラペラになりたいけど、練習がめんどくさい。
- 質問 49. 頭の良い人だけが英語を習得できると思う。
- 質問 50. 日本の学校では英語の授業が多すぎる。
- 質問 51. 英語を長く勉強してきたが、ほとんど上達していない。
- 質問 52. 英語を使って自分の考えを表現することは楽しい。
- 質問 53. 英語を流暢に話したいが、練習することは好きではない。
- 質問 54. 英語を学ぶことは、トラウマになっている。
- 質問 55. 英語をこれだけ長く勉強してきたのだから、もっと上達しているべきだと思う。
- 質問 56. 英語を学ぶとワクワクする。
- 質問 57. もっと英語を使いたいけど、自信がない。
- 質問 58. 英語をもっと積極的に使いたいけど自信が持てない。
- 質問 59. 英語が必須科目でなければ勉強を止めるだろう。
- 質問 60. 英語を実際の場で使っている人を知っているので英語習得に興味がある。
- 質問 61. 自分は他の人と比べて英語を学ぶ能力が劣っていると思う。
- 質問 62. 英語を学ばなくてはいけないことがとても嫌だ。
- 質問 63. 外国人と一緒に働きたくないので、英語は必要ではない。
- 質問 64. 学校での英語の勉強は嫌いだが、実際に英語を使うことは好きだ。
- 質問 65. 英語をもっと話せたらいいけど、恥ずかしい。
- 質問 66. 英語を話したいけど、自信がない。